

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「クオール、ローソンのFC店で血液検査サービス」
- 2) 「タリーズ、コーヒー店に授乳室を併設」
- 3) 「明治、だし利かせたベビーフード 料亭監修で9月発売」

1) 「クオール、ローソンのFC店で血液検査サービス」

クオールはローソンのFCとして展開する薬局併設型のコンビニエンスストアで血液検査サービスを始める。利用者が自ら採取した血液を使って血中の脂質や肝臓などの機能に関わる13項目の数値を調べる。まず1日に開業する横浜市の新店でサービスを導入。クオールが出すコンビニの新店に加え改装店にも広げる。

1日にオープンする「ローソン港北新横浜二丁目店」で血液検査サービスを導入する。利用者は店内の薬剤師のアドバイスの下で専用の自己採血キット内の小さい針で指先を刺して3-4滴の微量の血液を採取。血液の検体を店頭に渡すと1週間程度で検査結果を店頭で手に入れることができる。検査の価格は3000円程度。

クオールの薬剤師は血液検査の結果などをもとに健康相談に乗り、店内の大衆薬や健康食品などを提案する。

検査後のアフターフォローなど、ドラッグ店が母体であることを活用したサービスで利用者にとっても気軽に検査できると思う。ローソンは様々なサービスを取り入れているが、是非その利用者数も公開してもらいたい。一消費者として、どれくらいの人が利用しているのかわかりたいし、もしヒットしているならば「みんながやっているから自分も」というように利用者も増えていくのではないかな。

2) 「タリーズ、コーヒー店に授乳室を併設」

タリーズコーヒージャパンは9月3日に授乳室を備えた路面店を兵庫県宝塚市に開く。近隣に宝塚大劇場や住宅街があり女性客が多く見込めることから、化粧スペースをトイレ内に設けるなど女性が利用しやすくした。店舗面積は約300平方メートル。座席は132席でテラス席や10人ほど利用できる個室もある。宝塚歌劇の観客や地元の主婦など多人数での利用を見込む。

商業施設等に入っていることが多いからか、そういえば大きなトイレを併設しているというイメージがない。授乳中はコーヒーも避けると思うが、最近ではカフェインレスコーヒーやコーヒー以外のドリンクも充実しているのでこうした設備があれば乳幼児連れの方もより利用しやすくなると思う。赤ちゃん・子供にやさしい店づくりは今後ますます求められていくと思う。

3) 「明治、だし利かせたベビーフード 料亭監修で9月発売」

明治は26日、昆布とかつおのだしを利かせた高級ベビーフード「明治プレミアムベビーフード みかくのはじまり」を9月19日に発売すると発表した。鳥雑炊、肉じゃが、煮込みうどんなど8品で、京都の老舗料亭の監修を受け本格的な和食に仕上げた。

明治は、糖や脂肪分の多い食事に依存した子どもの肥満が増えていることに着目。健康的な和食を好む味覚を育てるには、離乳期にだしを利かせた食事を取ることが効果的という京都大の研究に基づいて開発した。

対象年齢9ヵ月以上が3品、12ヵ月以上が5品で、希望小売価格は216円。ドラッグストアとベビー関連商品の専門店で販売する。

離乳食は赤ちゃんが初めて口にする食べものなので「食育」の基板なるものだと納得した。実体験として記憶に残しておけば、のちの食育での効果も大きいと思う。三つ子の魂百までという諺の通り、小さいころからしっかりとした食生活をさせておくと将来的に生活習慣病のリスクも下がるかもしれない。メーカー主体ではなく、スーパーなどでの食育イベントでも離乳食育の企画を行い、親世代も市販品を買うだけでなく「自分で作って食べさせる」という点でのサポートも必要だと思った。